

甲斐市立竜王小学校 自己評価書（後期）

平成26年1月28日(火) 作成

校長 「奥山 賢一」

記述者 職名（教諭・教務主任）「望月 政幸」

学校教育目標 「課題意識をもって学び、心身共に健康で、人間性豊かな児童の育成」

学校経営方針

- (1)教職員の英知と和を結集し、学校教育目標の具現化に努める。
- (2)児童一人ひとりの自己実現を目指す学校づくりを推進する。
- (3)研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりを推進する。
- (4)特色ある学校づくりに努める。
- (5)安全・安心な学校づくりに努める。

1 全体評価

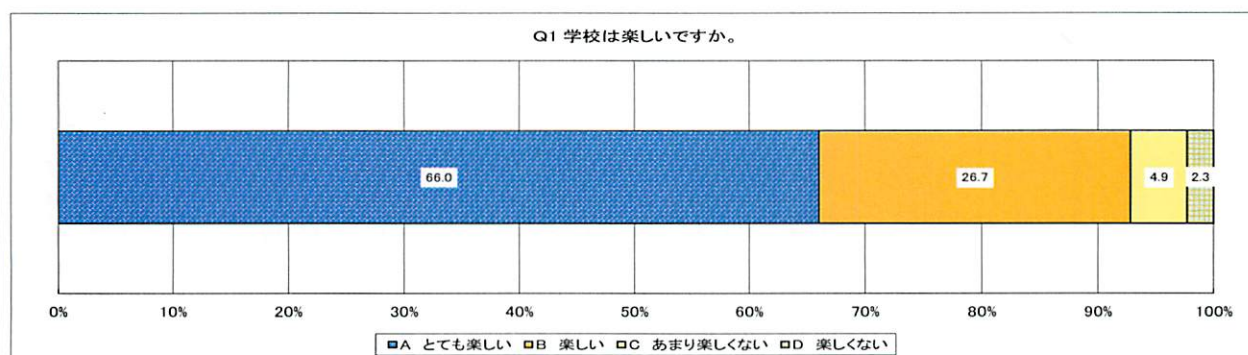
2回目の教職員自己評価も前回同様に、「学校教育目標に関して・学校経営について」「学校運営について」「学習指導について」「生徒指導について」「地域との連携について」「学校の特色に関して」の6観点について、それぞれ(A：そう思う B：ややそう思う C：ややそう思わない D：そう思わない)の4段階でアンケートを実施した。

○ **49項目中41項目でA+B=100%、7項目がA+B≥90%、1項目がA+B≥80% (88%)**

であり、否定的な回答率が10%を超えた項目はQV-1「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている」だけであった。また前回との比較においては、27項目でA評価の回答率が上昇していることが分かった。このことから、全般的には肯定的な高まりが見えている（職員が自信を持って教育活動に臨んでいる）と言ってよいのではないだろうか。

○第1回のアンケートで気になった項目については、職員会議を通じて確認し合い取り組んできた。その結果については、2の項目で触れることにする。

○今回は、保護者アンケートも実施した。結果については、昨年度とほぼ同様の状況である。課題が残る項目については、今後の教育改善の参考資料としていきたい。



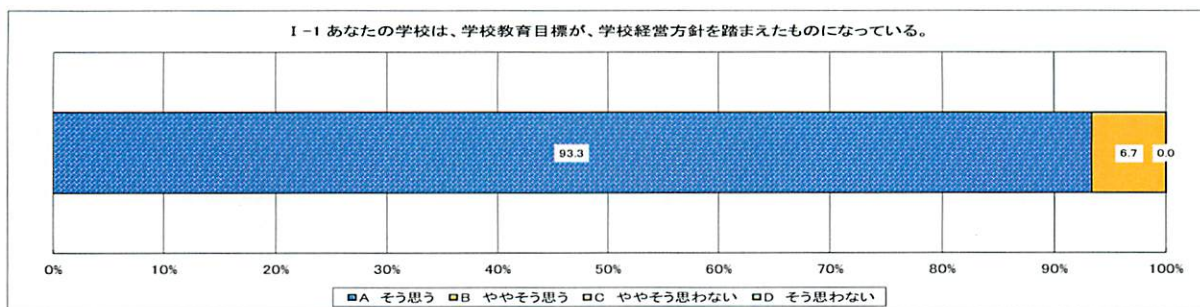
※児童アンケート「学校は楽しいですか」では、90%以上の児童が『楽しい』と答えている。しかし、反面7%（30名程度）の児童は、1回目同様に否定的な意見を寄せている。今後も、これらの児童については、より一層目を向けていく必要があると思われる。またこの結果は、クラスごとに行われるQU調査との相関を見ながら取り組まなければならないと思われる。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

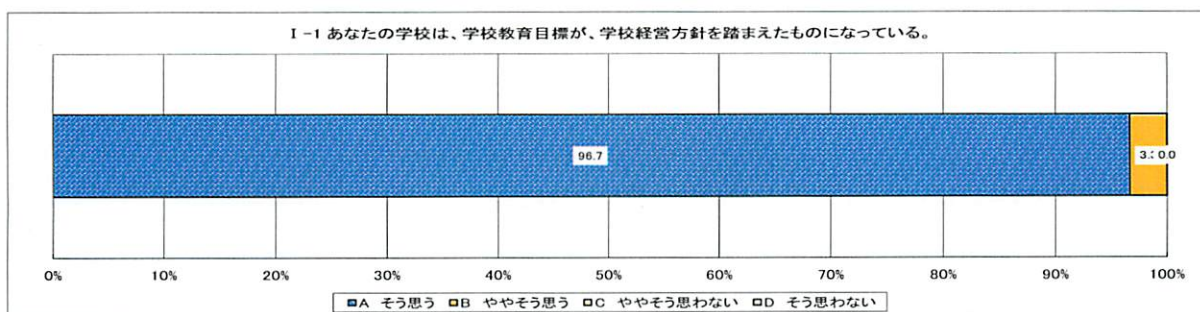
I 学校教育目標に関して・学校経営について

「学校教育目標に関して・学校経営について」は、①②③④⑤⑥⑧（ $A + B = 100\%$ ），⑦（ $A + B = 90\%$ ）。学校教育目標を踏まえ、 $P \rightarrow D \rightarrow C \rightarrow A$ サイクルを取り込んだ、適切な学校経営への努力がなされていると思われる。今後はさらに努力を続け、Aの値が増えることを目指したい。

状況 Q1-1「あなたの学校は、学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている」（前回の評価）



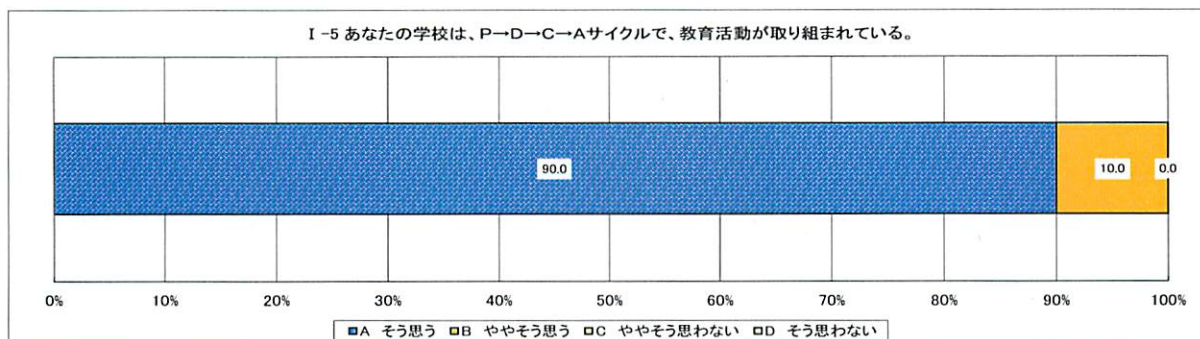
〈今回の評価〉



※安定した結果が見られている。

☆なお、学校教育目標は、子ども達の行動目標となるよう、職員研修の機会を経て、別紙「平成26年度グランドデザイン」に掲げたものに変更することとなった。

・Q1-3「あなたの学校は、 $P \rightarrow D \rightarrow C \rightarrow A$ サイクルで、教育活動が取り組まれている」

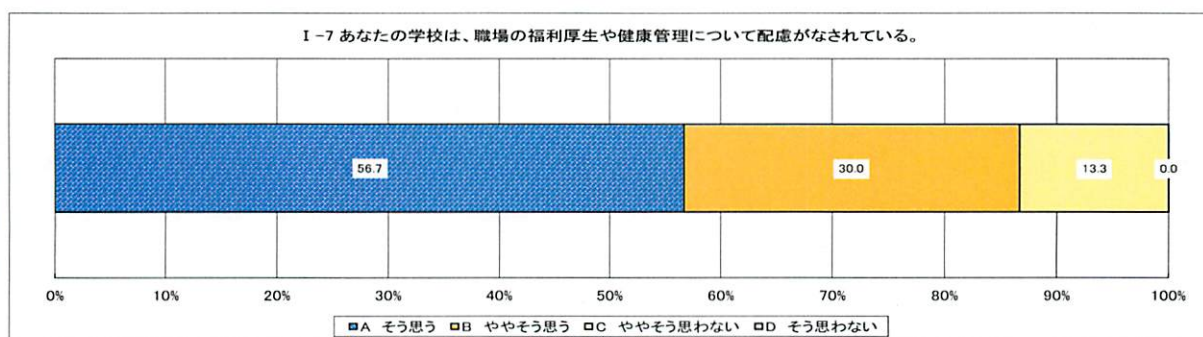


※「計画、実行、評価、改善」により、常によい方向を模索しながら進められている。

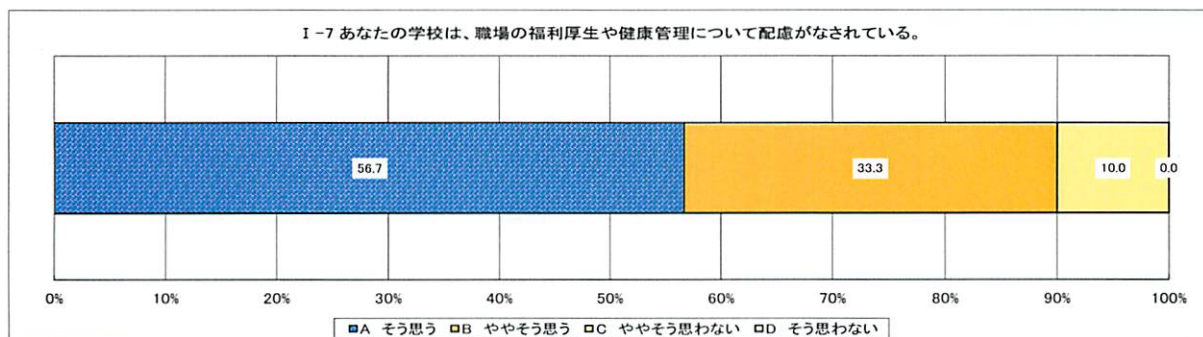
・⑦の「職場の福利厚生や健康管理についての配慮」の項目においては、前回の評価において改善項目としてあげ、わずかだがよい方向に向いている。学校の多忙化や問題の複雑化などに伴って、画期的に向上することは難しい項目であると思われるが、さらに充実した教育活動推進のため、職員の心身の健康に留意していきたい。

＜前回の評価＞

Q1-7「あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている」



＜今回の評価＞



改善策

- ・教職員の心や精神面での健康において、ストレスや疲労が重ならないよう、メンタルヘルスへの取組をこれからも強化していく。
- ・日常の声かけ、小さなところからの協力体制づくり等によって、笑顔ある職場づくりをさらに推進する。
- ・各種会議や行事等の効率化を図り、教育活動における教職員相互の協力体制づくりに努め、勤務時間外業務の解消を行っていく（特に来年度に向けて）。また補欠計画を組むなど、体調不良や家庭の事情等による休暇がとりやすい職場づくりを更に進めていく。
- ・職員厚生部等を中心に、職員の健康増進や親睦が図れる活動を定期的の実施して、心身ともに健康を維持できる職場環境づくりに努めていく。

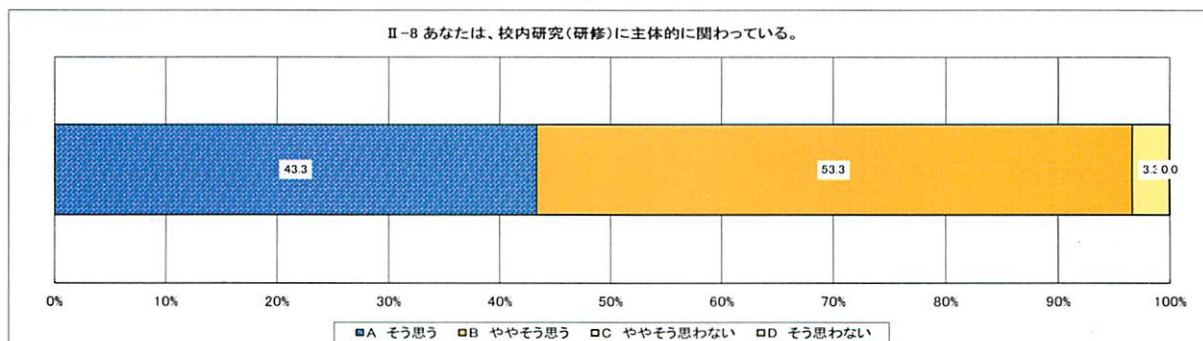
II 学校運営について

達成状況

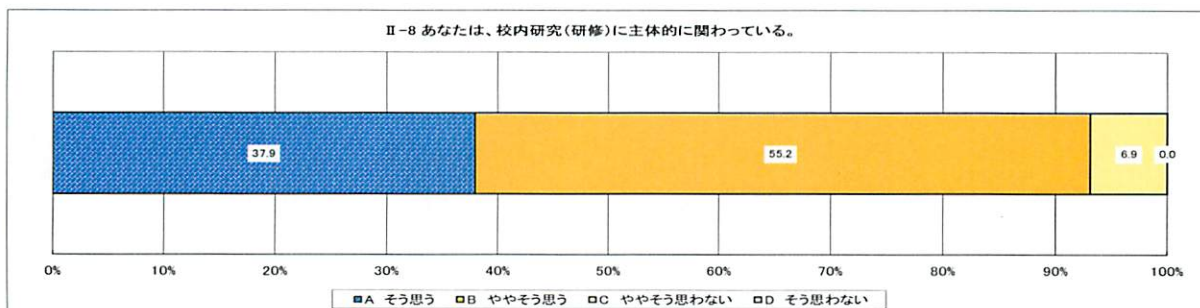
「学校運営について」は、①②③④⑤⑥⑦⑨（ $A + B = 100\%$ ）、⑧（ $A + B \geq 90\%$ ）。全般的に高い肯定率となっている。

＜前回の評価＞

Q II-8「あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている」



<今回の評価>



※今年度から「創甲斐教育」での指定を受け「習得・活用・探求する児童の育成」をテーマとした研究が始められ、来年度の公開に向けて深めているところである。サブテーマが「～ ICT 機器を活用した学習を通して～」ということもあり、支援員や教務職員などにとっては普段の授業形態からなかなか難しいため、今回の評価になったと思われる。数値はともかく、全職員力をあわせながら日々の学習活動に向かい、児童の学力向上のために努力していることは確かである。

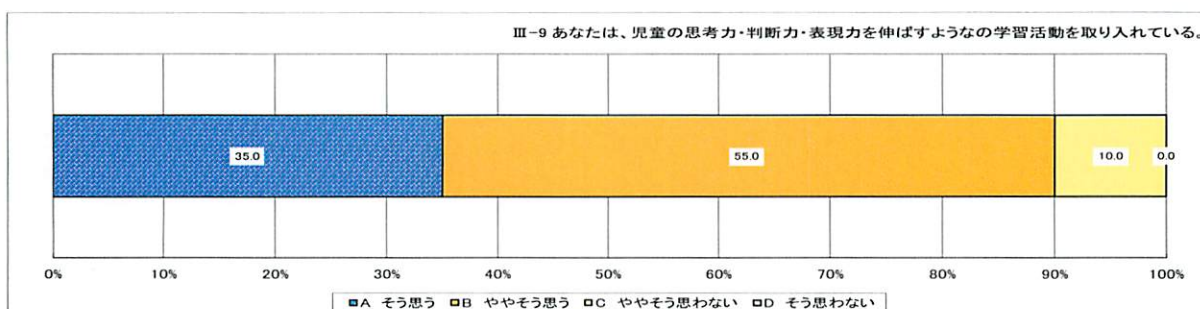
- 改善策
- ・ 目指す児童像を明確にし、児童の学力向上を図るという目的に向かって、全職員が主体的に取り組む姿勢が見られるような授業研究や研修課題を仕組んでいく。
 - ・ ICT は児童の学習を助ける一つのツールとして捉え、その有効性を学ぶと共に、使い方や利用法、使用の場などに関する知識を深めあう機会を多く取っていく。

Ⅲ 学習指導について

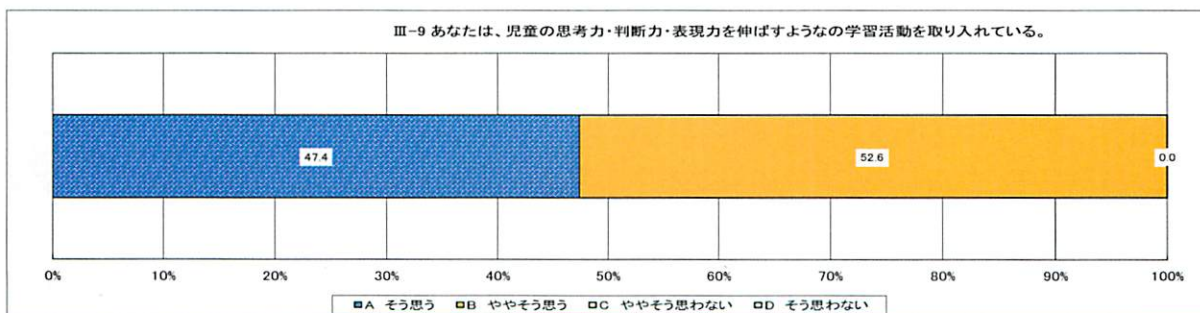
「学習指導について」は、①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩(A + B = 100%)。全般的に、肯定的な結果となっていることが分かる。

- 達成状況
- ・ 前回課題としてあげた Q Ⅲ-9「あなたは、児童の思考力・判断力・表現力を伸ばすような学習活動を取り入れている」については、校内研究や教職員評価等を有効に使い、学習活動の見直しを積極的に行ってきた。特に、児童が自ら考え、判断したことを意欲的に表現するような学習展開の在り方を取り入れ、研究会でそれを検証しあえるような機会を持ってきたことによって、よい方向に向かっている。

<前回の評価>



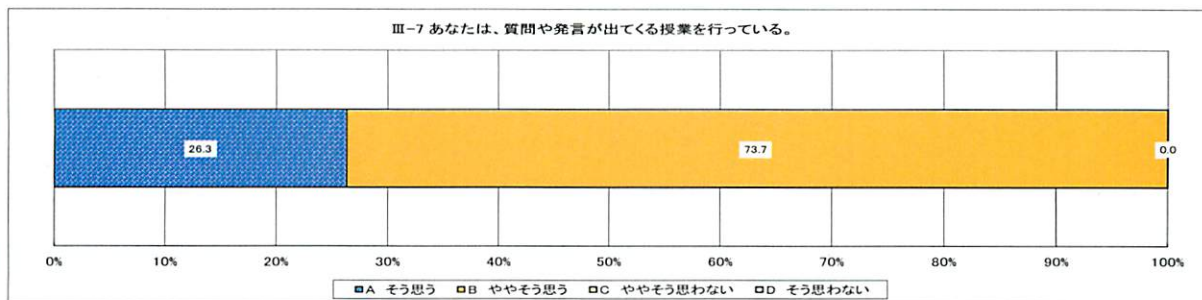
<今回の評価>



- ・肯定的な結果となっているが、さらにAの値が増えるよう、次の項目を課題として取り上げたい。

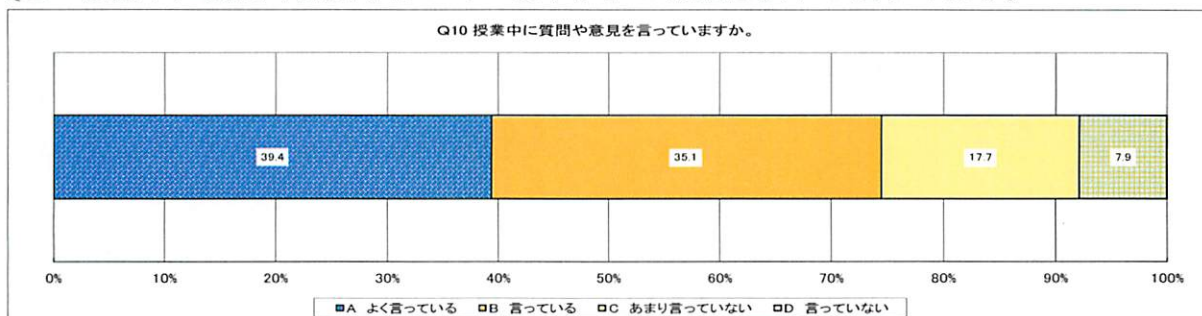
＜今回の評価＞

Q III-7「あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている」



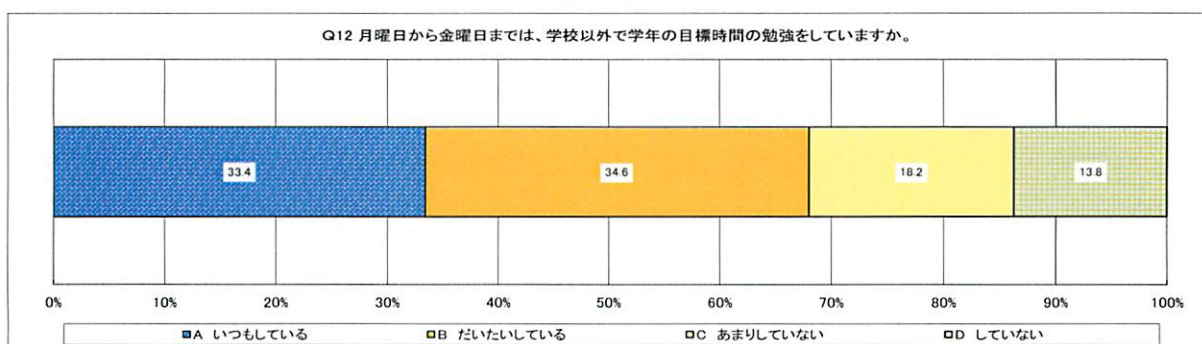
これに関連した児童アンケートとして、

Q10「授業中に質問や意見を言っていますか」の結果は以下の通りである。

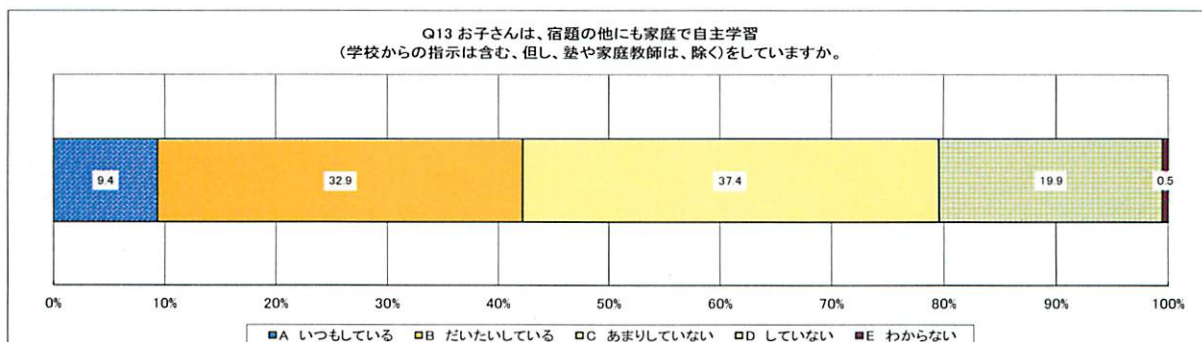


- ・児童アンケートおよび保護者アンケートによって、**学校以外での学習時間についての課題も見えてきている。**

児童 Q12「学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか」(学年×10 + 10 分)



保護者 Q13「お子さんは、宿題の他にも家庭で自主学習をしますか」



※学力向上に関して、家庭学習の在り方が大切になってくる。今後、家庭学習に関しての全校的な取り組みや家庭への呼びかけが必要になる。

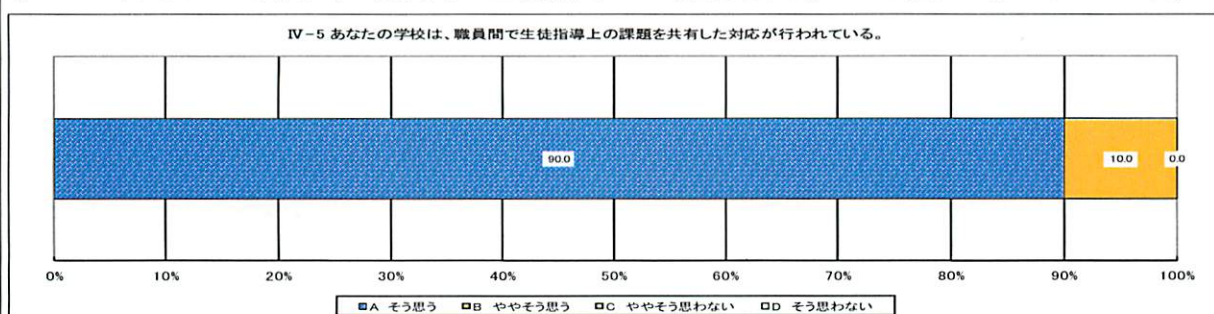
- 改善策
- ・児童、特に高学年児童において、自信を持って発言しあえるような学級づくりや授業規律の構築をさらに進めていく。
 - ・校内研究ともあわせて、児童が考え表現しあえるような授業を今後も継続し、意見を出し合うことが普通であるという授業形態や雰囲気作りをさらに進めていく。
 - ・平成26年度に向け、家庭学習ノート等の具体的な学習方法や学習内容を検討し、保護者への提示を行う準備をしていく。

IV 生徒指導について

- 達成状況
- 「生徒指導について」は、②④⑤⑥⑦ ($A+B=100\%$)、①③ ($A+B \geq 95\%$)。
- ・本校では、日常より組織立てた体制で生徒指導に当たることができている。そのため、高い数値が見られるのであると思われる。特に、いじめや不登校についての取組は、一層充実させたいと考えている。今後、ますます難しく深刻化することも予想されるので、早期発見、早期対応を心がけたい。

<今回の評価>

Q IV-5 「あなたの学校は、職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている」

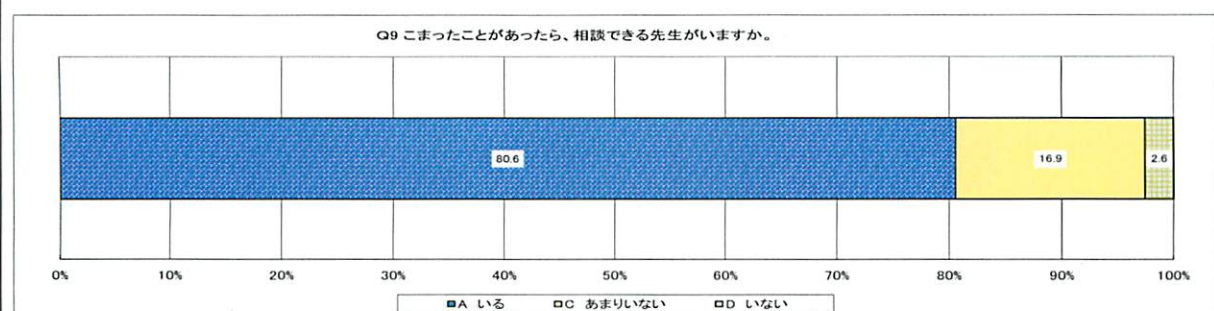


※高い肯定率が見られた。

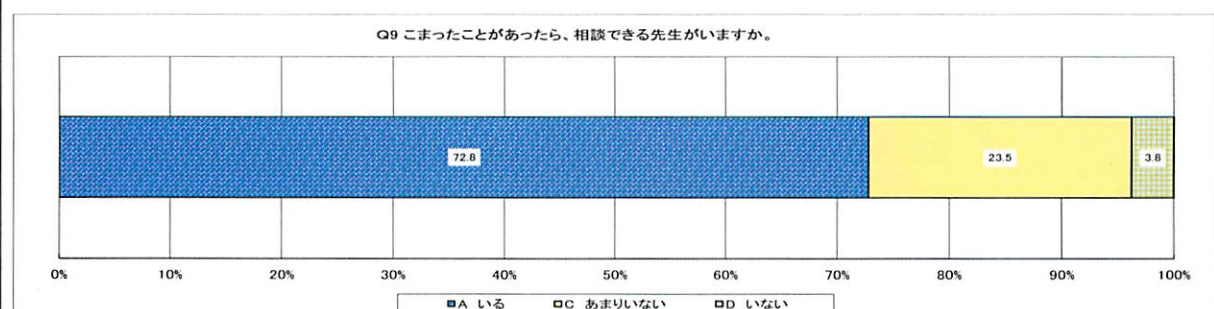
- ・児童と職員との関係について。

<前回の評価>

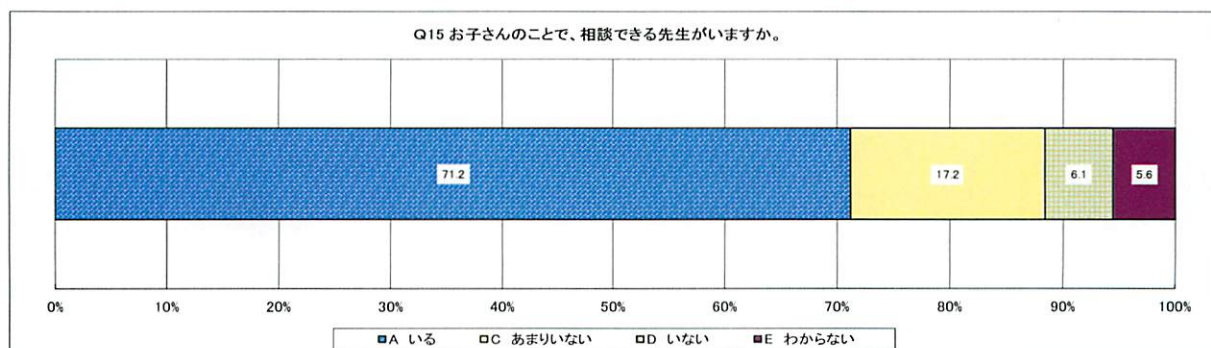
児童アンケート Q 9 「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか」



<今回の評価>



保護者 Q15 「お子さんのことで、相談できる先生がいますか。」



※相談できる先生がいるという児童の割合が減っているのは気にかかる事項である。また、20%程度の保護者が相談できる先生はいない（あまりいない）と答えている。学校の多忙化、問題行動の複雑化などの中、**一番大事になることは職員と児童、職員と家庭との信頼関係である。学級担任はもちろん、学級や学年を超えて、「何でも相談できる先生」を増やしていくことが今後の課題になってくるであろう。**

改善策

- ・ QU 調査やいじめアンケート、本調査等を有効的に活用し、児童一人一人の理解や支援を行い、よりよい学校生活と友だちづくりに努めていく。
- ・ 授業中や休み時間はもちろん、日常より児童とのコミュニケーションを常に心がけ、児童との信頼関係を深め、何でも相談できる関係を築いていく。あわせて、児童理解や問題行動の早期発見にもつなげていく。
- ・ 担任だけでなく、管理職をはじめ教務職員も率先して全校児童とのふれあいの機会をもつように心がけ、保護者から相談できる先生となっていくようにする。
- ・ 家庭と相互に協力し合い、課題を明確にした情報交換を図りながら、健全な生活習慣や生活態度の育成に努めていく。

V 地域との連携について

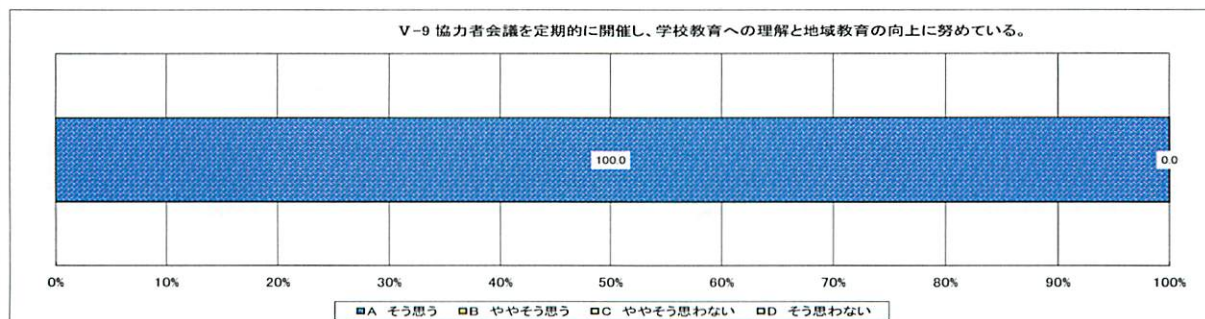
達成状況
改善策

「地域との連携について」は、③⑤⑥⑦⑧⑨（A + B = 100%）、②④（A + B ≥ 90%）（① A + B ≥ 80%）となっている。

- ・ 本校独自の活動である「協力者会議の開催」についての項目について、全職員（A 評価：そう思う）と回答している。また、評議員制度や評価委員会の話し合いが活かされているという回答も高くなっている。

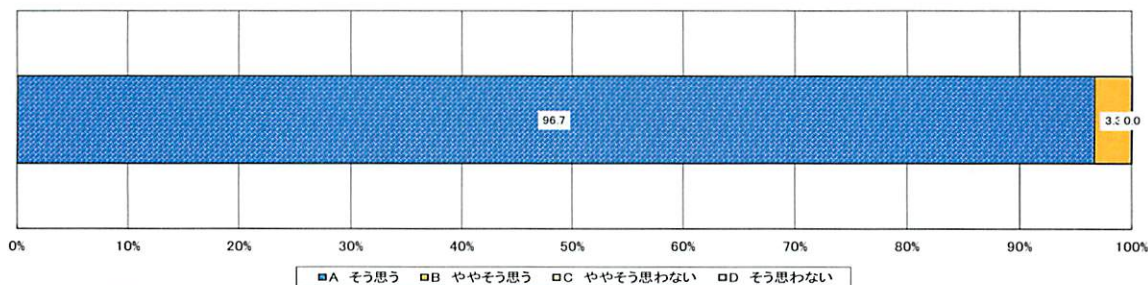
<今回の評価>

QV-9「協力者会議を定期的に開催し、学校教育への理解と地域教育の向上に努めている」



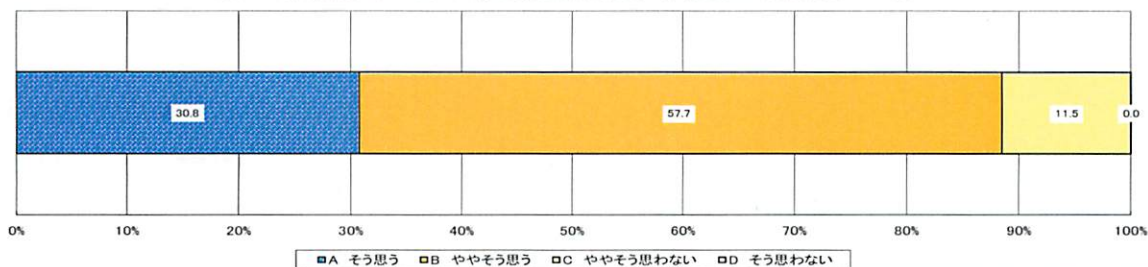
QV-8「あなたの学校では、学校評議員制度や学校関係者評価委員会の話し合いの結果が学校教育に生かされている」

V-8 あなたの学校では、学校評議員制度や学校関係者評価委員会の話し合いの結果が学校教育に生かされている。



- ・ QV-1「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている」に関しては、本校の立地条件や地域の人材を生かした学習指導を積極的に心がけたことによって、ここ数年向上を見せてきている。**また、協力をいただいたり相互に交流しあったりすることにより、地域の皆さんとのつながりを深められていると思う。今後さらに推進したいと考える。** ・ 今後も「家庭や地域に開かれ、

V-1 あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。



信頼される学校づくりの推進」のため、必要な情報を積極的に発信していくと共に、地域の教材や人材を教育資源として取り入れ、地域の教育力を生かす教育活動に取り組んでいく。また、学習内容をしっかりと教育計画に組み込むことによって、継続されていくことを図っていく。

- ・ 学校評議員、地域や PTA の代表者からなる協力者会議を定期的に開催し、さらに学校教育への理解と協力、地域の教育力の向上についての取り組みを推進していく。その場でいただいたご意見を職員会議等の場で確認し合い、その後の活動に生かせるようにしていく。

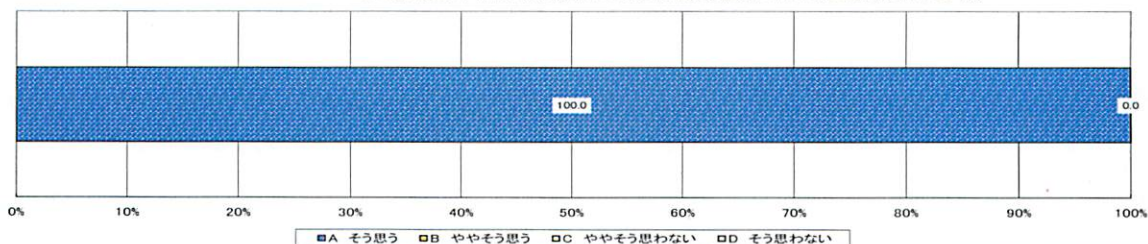
VI 学校の特色に関して

「学校の特色について」は、①②③④ (A + B = 100%) ⑤⑥ (A = 100%) となっている。「あいさつ運動」「学校開放日」「読書活動」「児童会活動」「授業時数の確保」等、本校が力を注いでいる教育活動の目標達成に向けた職員の関心や意欲に関しては、前回と同様に高い数値が見られる。また昨年度より取り組んでいる「教育機器 (ICT等を含む) を取り入れた活動」についても、校内研究の内容を踏まえ、一人一人が積極的に取り組んできたことが分かる。

そ (今回の評価より)

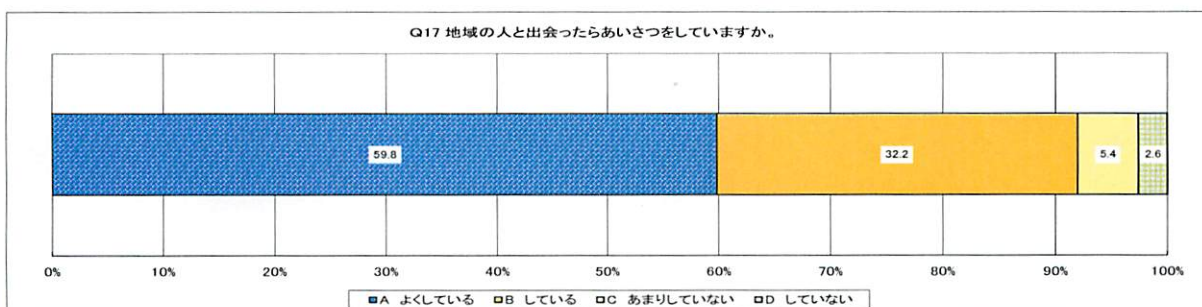
の Q VI-6「あなたの学校は、教育機器 (ICT等を含む) を積極的に取り入れた活動を行っている。」

VI-6 あなたの学校は、教育機器 (ICT等を含む) を積極的に取り入れた活動を行っている。



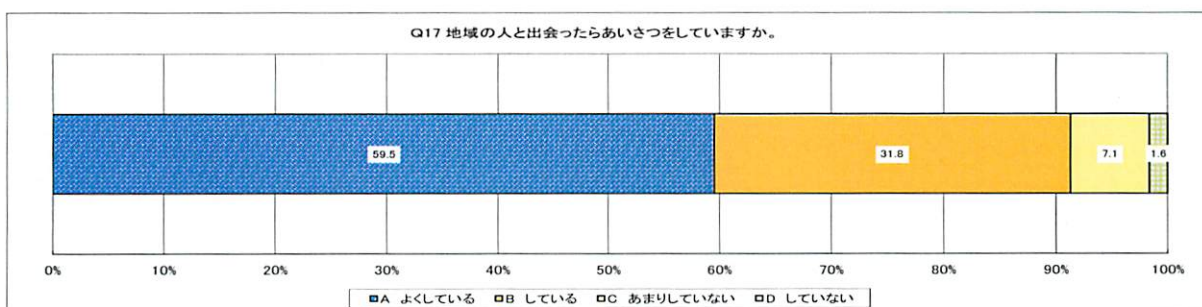
学力調査に

児童アンケート Q17「地域の人と出会ったらあいさつをしていますか。」
〈前回の回答〉



〈今回の回答〉

※児童の回答にほとんど変化がない。児童会活動等を通してあいさつ運動を進め、90%を超える児童が肯定的な回答を示しているが、今後はAの値が増えるよう、学校内を含め、あいさつがさらに活発に行われるような活動を推進していきたい。



今年度、3・5年生は「山梨県学力把握調査」を、6年生は「全国学力学習調査」を行った。今回、その結果の概要と改善策を説明した。

3 まとめ

〈成 果〉

- ・学校経営や学校運営等、教育活動全般について、教職員で共通理解を図りながら改善に取り組んだところ、肯定的な評価の回答率が上がった項目が増えた。
- ・教職員自己評価、保護者アンケート、児童アンケートの結果は、今後の学校運営や教育改善の参考資料となっている。（職員会議の資料等とする）
- ・生徒指導について、問題行動への対応や指導体制、報告・連絡・相談による情報の共有化などがしっかりとされているという結果が出ているので、今後も続けていきたい。
- ・地域との連携も、深まってきていることが分かった。地域の人材や教材活用についてさらに検討し、有効な教育活動を計画していきたい。
- ・自己評価や保護者・児童アンケートを実施したことから、改めて職員一人一人が自分達の姿や今後の指導の在り方を見つめ直すことができた。
- ・児童の多くが学校や授業を楽しく感じ、頑張っている姿をうかがうことができた。

※児童の学力における優れている点や課題となる点が見えてきた。

〈課 題〉

- ・学校評価（教職員自己評価・児童アンケート・保護者アンケート）の調査結果について、教職員一人一人が真摯に受けとめ、今後も肯定的な回答率 100%を目指していくこと。
- ・学習指導においては、思考力や判断力・表現力を伸ばすような学習活動を仕組んでいくとともに、学力調査の結果を基に児童の学力向上に向けての方策を考え実施していくこと。
- ・家庭学習の在り方について検討し、全校的に取り組んでいくこと。

- ・肯定的な回答のかけにかくれている，少数の否定的な児童に対し，今後もより細かく丁寧な見取りや対応が必要となってくること。あわせて，児童とのコミュニケーションを深める中で，児童や保護者との信頼関係を築きながら，より一層問題行動（いじめや不登校等）への早期発見，早期対応を図ること。
- ・職員のメンタルヘルスへの取組を今後も計画的に実施していくこと。